



子どもを笑顔で迎える地域の絆

大津交通安全協会下阪本支部編

2019年5月8日、大津市大萱六丁目の交差点で車2台がぶつかり、うち1台が保育園児の列に突っ込みました。このような痛ましい交通事故が、日本のどこかで毎年起こっています。



ちなみに、滋賀県では歩行者の交通事故の犠牲者(令和4年度)は302人で、その内、亡くなられた方は13人でした。ところで、大津市内での交通事故発生状況(令和4年12月末)を調べてみますと、交通事故発生件数が605件で、その犠牲者は758人にも及んでいます。一方、昨年度下阪本学区での交通事故発生件数は18件でした。

歩行者事故の多くは、飛び出しや車両の横断が原因していると言われています。登下校の子どもたちの安全を確保するために、毎日交通量の多い交差点や通学路に立って、子どもの見守り活動や声かけ運動に多くの方々が携わっておられます。大津交通安全協会下阪本支部をはじめ、「子ども安全リーダー」、「おうみ通学路交通アドバイザー」の方や有志の方々であります。下阪本支部長の北村善博氏は、「子どもや高齢者をはじめ、歩行者を見れば、徐行や一時停止など、運転手が気に止めてほしい」、「どの子どもも元気で楽しい学校生活を送ってほしい」と、目を輝かせて話して下さいました。

下阪本支部は、大津市交通安全協会各支部と協調・連携しながら、交通安全啓発活動並びに子どもや高齢者の安全を見守る活動を行っています。具体的には、次のような活動を実施しています。

◇ 大津市交通安全協会本部とタイアップした啓発活動の実施

- ・協会本部の事業計画及び地域の事業を通じて交通安全の意識向上活動
- ・春、秋の交通安全運動期間中の交通立ち番及び啓発活動
- ・子ども及び高齢者の交通事故防止に向けた安全啓発活動



◇ 下阪本学区での交通安全啓発活動の実施

- ・毎朝、10数カ所で登校時子どもの見守り活動を実施(子ども安全リーダーや地域の見守りボランティアと協力して。1・15日は交通安全協会の統一行動日)
- ・啓発関係品(飛び出し坊や、交通安全旗、啓発品等)を提供
- ・小学校新入生並びに幼稚園児を対象に交通安全教室や防犯教室を実施(子ども安全リーダーと協力して)
- ・通学路の危険箇所を点検し、関係機関に改善要望を提出。そして実態説明と交渉を行う。

ボランティアを募集しています！！

見守りボランティア

- ・下阪本学区は南北に細長く、急激な開発に伴い朝夕の交通量が多く、通学時は危険がいっぱいです。
- ・下阪本支部では、朝の登校時に子どもたちの見守り活動に協力していただける方を募集しています。
- ・ご都合のよい日に、朝7時30分～8時の20分前後、基本は自宅の近くで見守り活動をお願いします。

《週1回、もしくは月1回でも結構です。元気な子どもたちと朝のあいさつを交わしてみませんか》

【至急！】おうみ通学路交通アドバイザー

「おうみ通学路交通アドバイザー」の依田さんは、毎日のように交通量の多い下阪本三丁目の交差点に立って、献身的に子どもの見守り活動や声かけ運動を実施していただいております。いつも大きな声で、「おはようございます」「行ってらっしゃい」と、下阪本の名物おじいさんであります。しかしながら、依田さんも80歳を超えられ、それを毎日続けていくことに限界を感じておられます。下阪本の誰か、子どもたちのために立ち上がっていただけませんか。ちなみに、「おうみ通学路交通アドバイザー」とは、通学中の子どもを交通事故から守り、安全な通学路を確保するため、保護誘導活動や通学路の点検活動等を実施します。

お問い合わせは、交通安全協会下阪本支部長 北村善博(578-6529)まで

下阪本の歴史 … 土の中って、おもしろい！

15世紀から16世紀にかけて、比叡山延暦寺を境として、琵琶湖側が「東坂本」、京都側が「西坂本」と称され、下阪本や上坂本を始め、穴太、唐崎、比叡辻、苗鹿等、「東坂本」の村々は広義に坂本村と呼ばれていました。当時、坂本村は京の都や堺の街に次ぐ人口と都市形態を有し、その繁栄ぶりについては湖都通信第13号や14号でお知らせした通りであります。その後も琵琶湖西岸の発掘調査は継続的に行われ、往時の繁栄ぶりが類推される重要な遺構や出土物が次々に発見されています。

発掘状況等は大津市による現地説明会や講演会、更には歴博や資料センターでの展示会などにて逐次公開されています。しかし、その都度発掘調査の結果を蓄積しながら、考察を積み重ねて判断しますので、少々もどかしい面もありますが心躍るような成果が多く得られています。今季、大津市歴史博物館では「発掘された大津の歴史(土の中って、おもしろい!)」をテーマに、9月3日まで発掘の貴重な成果が展示されています。皆さまにもご見学を是非ともお勧めしたいところでもあります。専門知識に裏付けられた発掘成果の数々の展示物には、無言の中にも言霊(ことだま)のようなものが感じられるのではと思っております。今後の調査の進展と更なる歴史の解明に自然と期待がふくらんできます。

なお、穴太遺跡では縄文時代から江戸時代までの遺跡・遺物が確認され、渡来系の遺構とされる古墳や「穴太廃寺跡」といった6世紀から7世紀の遺構も見つかっています。

〈坂本城遺跡〉



読売新聞社の本年7月18日付け朝刊に「坂本城の屋根は2色だった」と掲載された赤・黒色軒丸瓦等

〈比叡辻遺跡〉



坂本郵便局、国道東側付近から発掘された「古銭」ならびに「石組み井戸」、「雨だれ石畳」等

〈穴太遺跡〉



穴太南川原地区(下阪本二丁目)から発掘された「角柱」ならびに「発掘状況」等